

資料紹介

野尻（4）遺跡出土のヒスイ大珠について

## 野尻（４）遺跡出土のヒスイ大珠について

長内 孝幸（大沢迦工業団地調査会）

### １．はじめに

これまで青森県内の平安時代を主体とする遺跡から、ヒスイ大珠が出土した事例は報告されていない。しかしながら、平成13年度に実施した野尻（４）遺跡の発掘調査において、第95号竪穴建物跡内からヒスイ大珠が出土しており（第3図）、平安時代にもヒスイが使用されていたことを確認できた。このような特殊な出土事例を紹介するにあたり、同時期の比較資料が無いことから、浪岡町内の遺跡から出土したヒスイや、県内で報告がなされている主な遺跡のヒスイ大珠を比較しながら、該資料の紹介と検証をしていきたい。

### ２．遺跡の概要と出土状況

野尻（４）遺跡は青森県南津軽郡浪岡町大字高屋敷字野尻地内に位置し、平安時代（9世紀末頃から10世紀前半）を主体とする遺跡である。主な検出遺構としては竪穴建物跡・掘立柱建物跡・外周溝の3点セット、または土坑を含む4点セットを一単位とする建物跡や井戸跡、溝跡等がある。遺物としては土師器、須恵器が多く出土しており、祭祀・装飾に使用したと思われる土玉、ミニチュア土器、そして若干ではあるが擦文土器や、縄文時代後期前葉の十腰内Ⅰ式の土器片等が出土している。調査区は最近まで畑として使われていたため、耕作等の削平が強く遺構の残存度はあまり良くない。第95号竪穴建物跡は、長軸8.58m×短軸7.15mの規模をもち、カマドの主軸方向は南東を向いている。外周溝、掘立柱建物跡は附属しておらず、外周溝と同一機能をもつと考えられる土坑が廻る建物跡である。ヒスイの出土層位も床面、もしくは掘り方直上という曖昧な地点であったが、平安時代の遺構に伴って出土したことは事実である。同遺構からは、ヒスイ大珠の他に土師器（甕・坏）、須恵器（坏・壺形ミニチュア土器）、刀子、鉄滓等の遺物が出土している。

### ３．ヒスイの比較と出土資料

県内から出土しているヒスイは、勾玉や大珠など形や大きさなども多様であり、縄文時代を主体とする遺跡から出土するのが殆どである。大珠の形態は一般的に鯉節型、緒締型、斧型に大別され、さらに鯉節型には厚手型、細身型があり、緒締型には厚手型、細身型、扁平型、三角型、不整形型、方形型、縦孔型というように細分できる。

今回、野尻（４）遺跡から出土したヒスイ大珠（図2-1）は、縦3.5cm×横3.2cm×厚さ1.4cm、重量30.87gで、形態類型は緒締型の縦孔型に分類できる。穿孔は片側穿孔であり、貫通後に反対側の孔の仕上げを施している。縦側に穿孔を施すヒスイは、六ヶ所村の上尾駱（２）遺跡や、同じく六ヶ所村の沖附（２）遺跡に類例がある。まず、この六ヶ所村の遺跡と、浪岡町内

のヒスイが出土している遺跡を紹介したい。

1) 六ヶ所村上尾駱(2)遺跡(青森県教育委員会 1988)

調査区包含層からヒスイ大珠が4点ならんで出土している。出土したヒスイは両面に穿孔しているもの(図2-2・3)と、両面と縦側の二箇所を穿孔しているもの(図2-4・5)があり、縄文後期前葉の十腰内I式の土器が伴出している。また、不整楕円形玉等が2点出土している。

2) 六ヶ所村沖附(2)遺跡(青森県教育委員会 1986)

調査区包含層から方形玉が2点(図2-6・7)出土している。2点とも縄文時代後期前葉の十腰内I式の土器が伴出している。穿孔位置は、見方により縦側とも横側とも捉えられるものであるが、面ではなく厚みのない側端部から穿孔を施しており、形態から見ると本紹介資料とよく似ている。

3) 浪岡町源常平遺跡(青森県教育委員会 1978)

縄文時代晩期の土壌墓から出土している。第19号土壌墓の覆土第2層から硬玉製の玉が4点(図2-8~11)散在して出土し、底面からも硬玉製の玉が1点(図2-12)出土している。また、第21号土壌墓の底面からは有茎石鏃1点とともに硬玉製勾玉が2点(図2-13・14)まとまって出土している。

4) 浪岡町細野遺跡(青森県立郷土館 1984)

縄文時代晩期と思われる遺跡で、勾玉大珠が1点(図2-15)が出土している。

5) 浪岡町羽黒平(3)遺跡(浪岡町 1995)

縄文時代晩期中葉の包含層から硬玉製丸玉が1点(図2-16)が出土している。

以上が浪岡町内のヒスイ出土遺跡と、形態的に似ているヒスイ出土遺跡の紹介である。

福田友之氏(福田 1999)によると、青森県域における平成11年までのヒスイ出土遺跡数は71ヶ所、ヒスイ総数は631点であり、内訳は縄文609点、弥生4点、古代14点が出土したとされている。その中からヒスイ大珠の出土している遺跡と、浪岡町内の遺跡を抜粋して表を掲載した(表1)。

#### 4. おわりに

以上、本遺跡から出土したヒスイ大珠と、他の遺跡から出土したヒスイを比較、紹介してきた。しかし、なぜ平安時代の建物跡からヒスイが出土したのであろうか。まず考えられることは、

①縄文時代にその土地で生活していた人々がヒスイを手にいれ使用し、その後長い年月を得て、平安時代の人々が発見し、再使用した。

②平安時代に作製され、現地や近隣地域の人々と交易をして手に入れた。

などが考えられる。

福田友之氏からは、「本遺跡から出土したヒスイの産地は糸魚川産のものと考えられ、県内の縄文時代の遺跡から出土しているものと大差はなく、形態も縄文時代後期前葉に多く見られる大珠である」との教示をいただいた。たしかにヒスイの全盛期である縄文時代でもヒスイ未製品は数点出土しているに過ぎず、平安時代に当地、もしくは近地域で製作していたとは考えにくい。本遺跡からは縄文時代後期前葉、十腰内Ⅰ式の土器片も少量ながら出土しており、先にも述べたように縄文時代の人々による廃棄等で土中に埋まっていたものが、平安時代の耕作等で土中から発見され使用されたと考えるほうが自然である。やはり、縄文時代の人々と同じように平安時代の人々もヒスイの青（碧）という色に神秘的なものを感じとっていたのであろうか。

以上、現段階で考えられる事を述べてきたが、あくまでも可能性でしかなく、確実なものではないということを付け加えておきたい。今後の出土資料の増加を期待し、平安時代における当地の生活実態や精神的な側面から、本資料の出土意義を解明して行くことが必要と考えている。

本稿を作製するにあたり、青森県埋蔵文化財センターの福田友之氏からは種々御教示いただいた。また、浪岡町教育委員会の工藤清泰氏、大釈迦工業団地調査会の高杉博章氏からは様々な面からご指導いただいた。心から感謝を申し上げます次第であります。

## 引用・参考文献

- 浪 岡 町 「羽黒平（3）遺跡」浪岡町埋蔵文化財緊急発掘調査報告書第5集 1995  
三厩村教育委員会 「宇鉄遺跡」発掘調査報告書 1996  
青森県教育委員会 「沖附（2）遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第101集 1986  
青森県教育委員会 「源常平遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第39集 1978  
青森県教育委員会 「大石平遺跡Ⅲ」青森県埋蔵文化財調査報告書第103集 1987  
青森県教育委員会 「上尾駸（1）遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第113集 1988  
青森県教育委員会 「上尾駸（2）遺跡Ⅱ」青森県埋蔵文化財調査報告書第115集 1988  
青森県教育委員会 「富ノ沢（2）遺跡Ⅵ」青森県埋蔵文化財調査報告書第147集 1993  
青森県教育委員会 「三内丸山遺跡Ⅵ」青森県埋蔵文化財調査報告書第205集 1996  
青森県教育委員会 「餅ノ沢遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第278集 2000  
青森県教育委員会 「野尻（1）遺跡Ⅱ」青森県埋蔵文化財調査報告書第259集 1999  
青森県教育委員会 「野尻（2）遺跡Ⅱ・野尻（3）遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第186集 1995  
青森県教育委員会 「野尻（4）遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第186集 1995  
青森市教育委員会 「山吹（1）遺跡」青森市埋蔵文化財調査報告書第16集 1991  
青森県八戸市教育委員会 「田面木平遺跡（1）」八戸市埋蔵文化財調査報告書第20集 1988  
青森県立郷土館 「亀ヶ岡石器時代遺跡」青森県立郷土館・考古-第6集 1984  
青森県立郷土館 「火炎土器と翡翠の大珠」青森県立郷土館 2001  
浪 岡 町 「浪岡町史」第1巻 2000  
福田友之 「本州北端の硬玉製（翡翠）玉飾り」『青森県考古学』第5号 1990  
福田友之 「本州北端のヒスイ製装身具（2）」『青森県考古学』第11号 1999  
福田友之 「縄文時代の物と人の移動」『北日本の考古学』吉川弘文館 1993  
安藤文一 「翡翠大珠」『縄文文化の研究』第9巻 雄山閣 1983

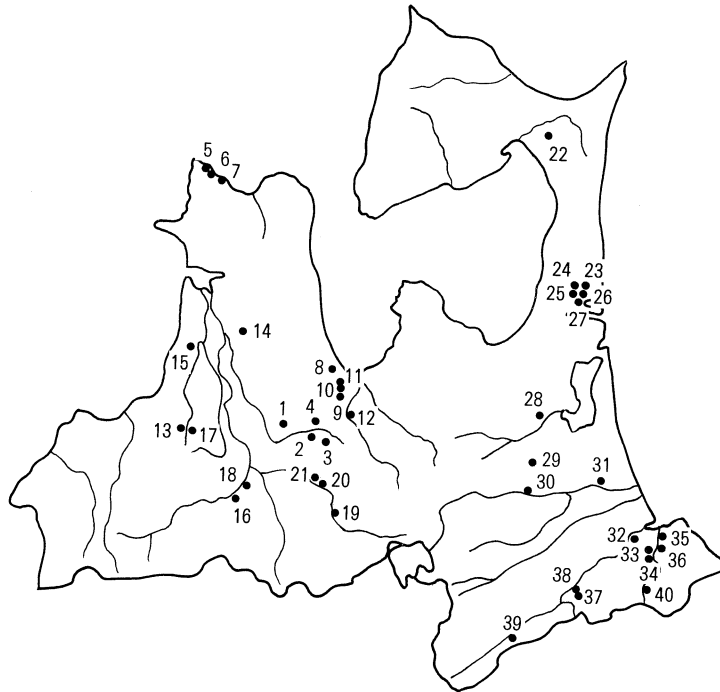


図1 青森県域のヒスイ大珠と浪岡町のヒスイ出土遺跡

表1 青森県域出土のヒスイ大珠と浪岡町のヒスイ一覧表

図1 番号	遺 跡 名	玉の形態と点数	出土状況	所属年代	伴出土器形式
1	浪岡町野尻(4)	方形大珠	第95号竪穴住居跡	平安時代	
2	〃 源常平	小玉5、勾玉2	第19・21号土壌墓	縄文晩期	大洞C1・C2式
3	〃 細野	勾玉大珠1	不明	縄文晩期?	
4	〃 羽黒平(3)	丸玉1	包含層	縄文晩期中葉	大洞C1・C2式
5	三厩村中の平	半月型大珠1、三角形玉1、不整形玉1	包含層	縄文後期前葉	十腰内I式
6	〃 宇鉄	円形大珠1	不明	縄文晩期?	
6	〃 〃	勾玉大珠1	不明	縄文晩期?	
7	〃 算用師	円形大珠1	不明	縄文	
8	青森市新城岡町	方形大珠1	不明	縄文晩期?	大洞C2式?
9	〃 近野	半月形大珠1	包含層	縄文後期前葉	十腰内I式
10	〃 三内	大珠1、溝のついた原石1	不明	縄文中期?	
11	〃 三内丸山	大珠4、楕円形玉・蔽き石等約37	大半が盛土	縄文中期	円筒上層b式～最花式直後
12	〃 山吹(1)	長楕円形大珠1 (5.4cm長)	第26号土壌	縄文中期後葉～末葉	
	青森市周辺	勾玉大珠5、勾玉7	不明	縄文	
13	鯉ヶ沢町餅ノ沢	方形大珠未製品1	包含層	縄文中期後半	
14	金木町妻の神	勾玉大珠片1	不明	縄文晩期?	
15	木造町亀ヶ岡	勾玉大珠2、大珠未製品1、勾玉3、丸玉16、丸小玉5、方形小玉2、未製品1	不明	縄文時代晩期?	
15	〃 〃	勾玉大珠1、丸小玉9	不明	縄文晩期	
16	相馬村湯口一ノ下り山	大珠1	不明	縄文中期?	
17	弘前市十腰内	勾玉大珠1、勾玉1	包含層	縄文晩期	
18	〃 笹森町	鯉節形大珠1 (3.5cm長)	不明	縄文	
19	黒石市一ノ渡	長楕円形大珠2	組石付近、2個並ぶ	縄文後期前葉	十腰内I式
20	〃 花巻	球形大珠1	不明	縄文中期?	
20	〃 〃	不整形円形大珠1	不明	縄文中期?	
21	〃 牡丹平	有溝楕円形大珠1	不明	縄文中期?	
22	むつ市最花	鯉節形大珠1	包含層	縄文中期末	最花式直後
23	六ヶ所村大石平(1)Ⅶ区	台形大珠1	包含層	縄文後期前葉	十腰内Ⅶ式
24	〃 富ノ沢(2)	牙形大珠1	包含層	縄文中期末	
24	〃 富ノ沢(2)	大珠2、軟玉大珠1	包含層	中期後半	
25	〃 上尾駁(1)	勾玉大珠1、勾玉6、各種玉87	土坑覆土	縄文晩期中葉	大洞C1・C2式
26	〃 上尾駁(2)	各種大珠4、不整形円形玉等2	包含層(4個並ぶ)	縄文後期前葉	十腰内I式
27	〃 沖附(2)	方形玉2	包含層	縄文後期前葉	十腰内I式
28	天間林村二ツ森貝塚	不整形円形大珠1	包含層	縄文中期?	
28	〃 〃	方形大珠1	不明	縄文中期?	
28	〃 〃	不定形大珠1 (5.1cm長)	不明	縄文中期?	
28	〃 〃	球状大珠片1	第1号住居跡	中期後半	
29	十和田市洞内	円形大珠1	不明	縄文晩期?	
30	〃 明戸	大珠片1、勾玉2、丸玉1、丸小玉3	包含層、第17・29号ピット	縄文中期、縄文晩期中葉	大洞C1・C2式
31	下田町阿光坊古墳	勾玉大珠1	3号墳主体部	古代	
32	八戸市田面木平(1)	不整形円形大珠1	第55号竪穴住居跡床面	縄文後期中葉	十腰内Ⅱ式
33	〃 是川中居	勾玉大珠1、勾玉1	包含層	縄文晩期中葉	大洞C1・C2式
34	〃 是川一王寺	有溝長方形大珠1	不明	縄文中期?	
35	〃 新井田	不整形半月形大珠1 (3.5cm長)	不明	縄文	
36	〃 長根	長方形大珠未製品1	第10号住居跡	縄文中期中葉	大木8b式
37	名川町平貝塚	楕円形大珠1	不明	縄文	
38	〃 広場	長楕円形大珠2	不明	縄文	
39	田子町野面平	勾玉大珠1	不明	縄文晩期	
40	南郷村荒谷	球形大珠1	不明	縄文後期?	

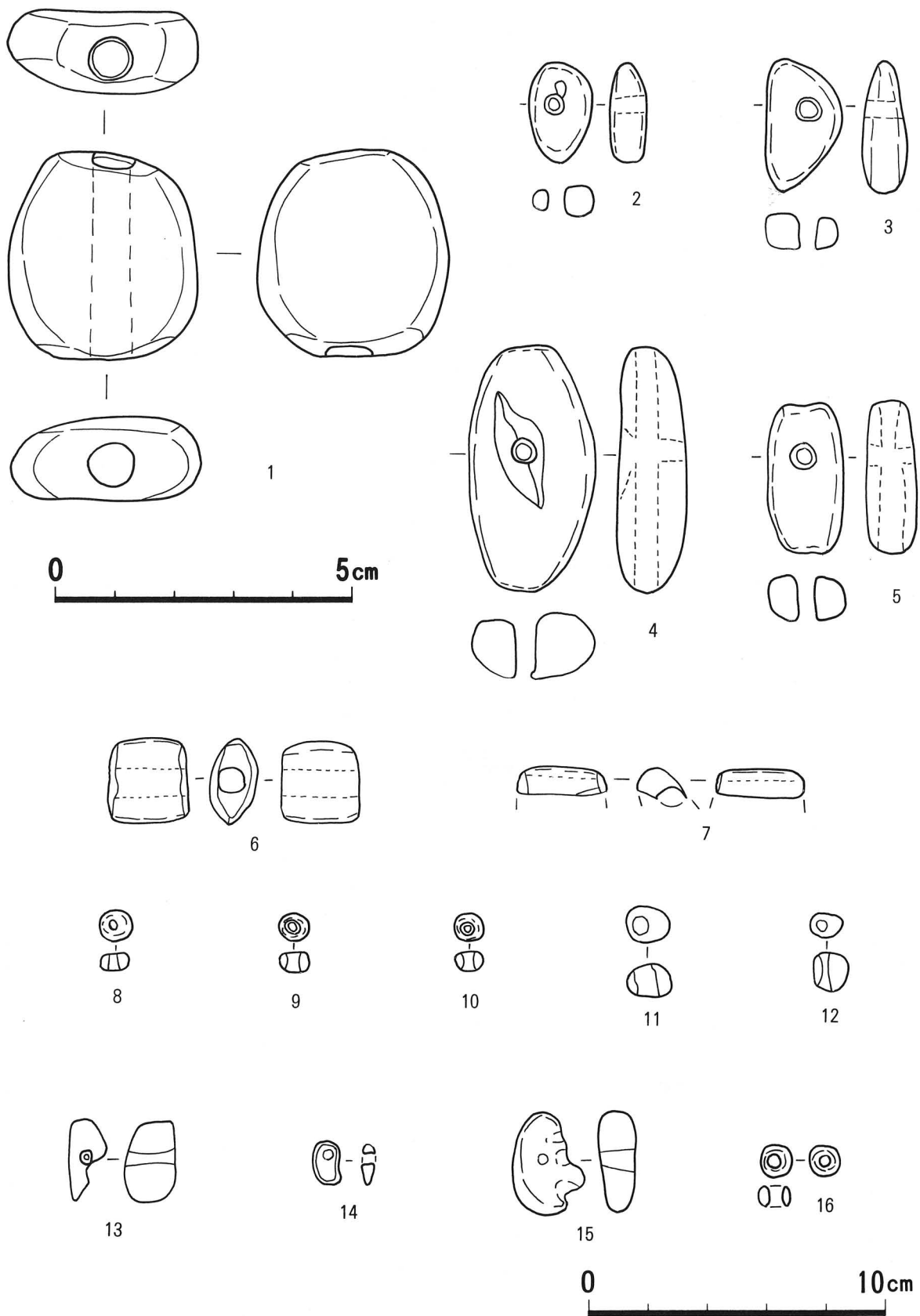


図2 浪岡町内出土ヒスイと類似資料の比較

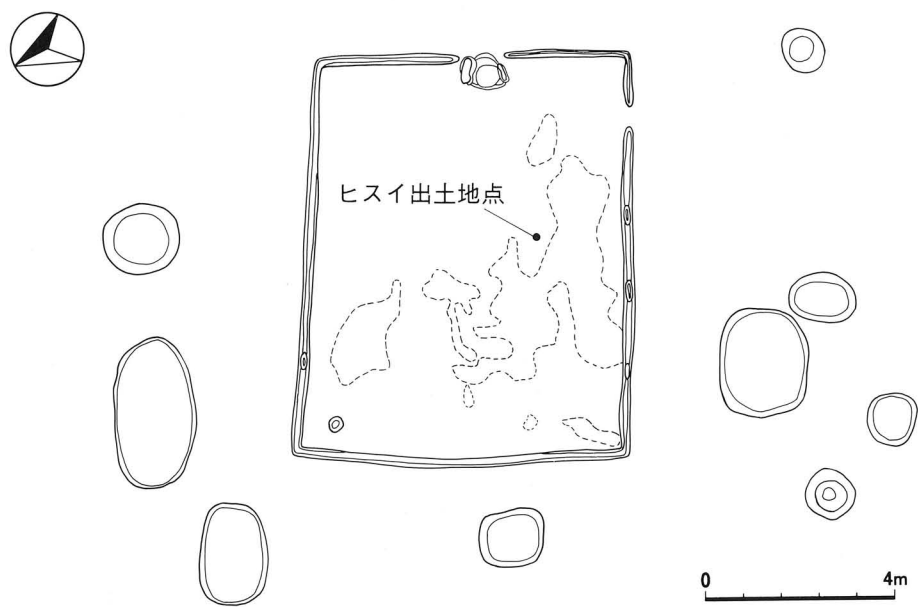


図3 第95号竪穴住居跡内ヒスイ出土地点



写真1 野尻(4)遺跡出土のヒスイ大珠